

## 春植えタマネギは端境期出荷が可能である

農業総合センター園芸研究所

### 【研究の概要】

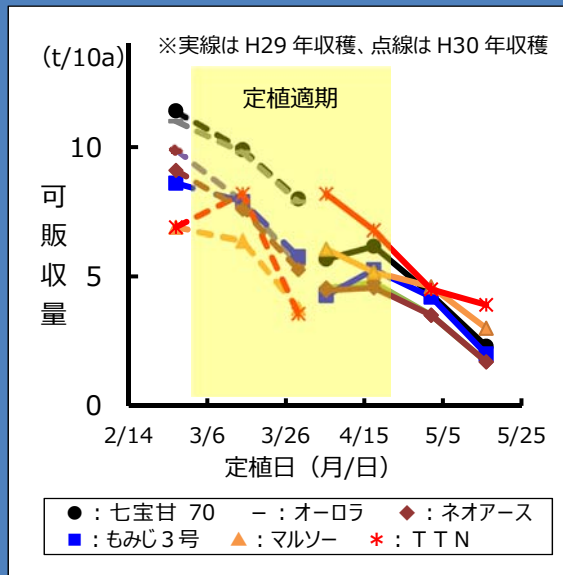
加工・業務用タマネギは周年的な供給を求められていますが、7～8月の出荷量が少なくなっています。そこで、より遅く収穫できる春植え作型を開発しました。本作型は、慣行の秋植えタマネギや水稲と作業を分散しながら導入することが可能です。

### 【研究内容】

1. 春植え作型の適品種選定  
6月下旬から7月に可販収量が5 t / 10 a以上になる品種を検討しました。
2. 定植日と収穫日、可販収量の関係  
育苗期間を明らかにし、定植日と収穫日および可販収量との関係を検討しました。

### 【研究成果】

1. 春植え作型の適品種  
「七宝甘70」、「オーロラ」、「ネオアース」、「もみじ3号」、「マルソー」、「TTN(トタナ)」の6品種を選定しました。
2. 定植日と収穫日、可販収量の関係  
適品種を育苗期間70日程度で、2月下旬から4月中旬に定植すると、6月下旬から7月に概ね5 t / 10 a以上の可販収量が得られます。
3. 栽培マニュアルの作成・公開  
本成果を基に「機械化一貫体系によるタマネギ栽培マニュアル(茨城県版)」を作成し、園芸研究所ホームページに掲載しています。右のQRコードからアクセスできます。  
(<https://www.pref.ibaraki.jp/nour/insuisan/enken/manual/>)



定植日と可販収量の関係

### 【将来の展望】

本作型は、慣行の秋植えタマネギや水稲と作業を分散しながら導入することができるため、本作型の活用により、水稲からの転作や、秋植えタマネギと組み合わせた大規模タマネギ栽培が可能になるものと見込まれます。

作物\月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
タマネギ 秋植え (慣行)		○ 播種	○	△ 定植							■ 収穫	
春植え					○ 播種	○	○	○	△ 定植			■ 収穫
水稲 早期	■ 田植え								○ 育苗期間 (ハウス使用)	○		
晩植			■ 稲刈り								○ 田植え	

タマネギと水稲の栽培体系